

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 105-7123
 住 所 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
 氏 名 富士通株式会社 印
 代表取締役社長 山本 正巳
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	富士通株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市中原区上小田中4-1-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	30	情報通信機械器具製造業
主たる事業 の内容	ITを活用したビジネスソリューション		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	23,316	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	川崎工場環境管理部
		所在地	川崎市中原区上小田中4-1-1
		電話番号	044-754-8976
		FAX番号	044-754-2524
		メールアドレス	0
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成22年度 ～ 平成24年度 (報告年度 平成24年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	当社の地球温暖化対策の取組については、ホームページにて公表しています。 http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 43,547 t-CO ₂ (調) 35,805	(実) 43,988 t-CO ₂ (調) 36,113	(実) 35,132 t-CO ₂ (調) 28,743	(実) 39,840 t-CO ₂ (調) 32,851	(実) 42,948 t-CO ₂ (調)
削減率		(実) -1.0 % (調) -0.9	(実) 19.3 % (調) 19.7	(実) 8.5 % (調) 8.3	(実) 1.4 % (調)

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	単位				
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の値		0	0		
削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	大規模事業所（川崎工場）においては、省エネ高効率型機器の導入等及び東日本大震災に伴う緊急の電力削減策（空調、照明、エレベータの停止等）を実施したことにより1.6%削減することが出来ましたが、大規模以外の事業所は猛暑による増加、また新規事業所（武蔵小杉オフィス）開設に伴う増加により、全体では1%の増加となりました。
第2年度	大規模事業所（川崎工場）及び川崎市内に設置しているすべての事業所において温室効果ガスの排出量を削減することが出来ました。
第3年度	富士通グループ第6期環境行動計画に沿って省エネ施策を実施いたしました。また震災以降は事業活動に影響を与えない範囲で定着した節電対策を併せて実施したことから、目標排出量を3,108 t上回る削減をすることが出来ました。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

<ul style="list-style-type: none"> ・ エネルギーCO2排出量 2012年度末時点にて、1990年度比 ▲24.4%（目標：▲6%） ・ CO2以外の温室効果ガスの総排出量 2012年度末時点にて、1995年度比 ▲60%（目標：▲20%） ・ 再生可能エネルギーの利用率 2012年度末時点にて、2007年度比 11.8倍（目標：10倍） ・ 国内輸送CO2排出量 2012年度末時点にて、2008年度比 ▲32%（目標：▲15%）
--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、 第2号、 第4号該 当者等)	計 画	<p>【社員一人ひとりの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジ25キャンペーン ・ オフィス空調温度の適正化及び照明・OA機器の節電) ・ 照明消灯(昼休み、就業後) <p>【省エネ高効率型機器の導入によるCO2排出量削減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用水ポンプを高効率モータに更新 ・ 蛍光灯を高周波点灯型省エネ器具に更新 ・ 冷凍機を高効率化に更新 ・ 変電所の変圧器を省エネ型トッランナー変圧器に更新 ・ 変電所統合による省エネ ・ サーバ統合/終夜電灯の削減
	第1年度	<p>【社員一人ひとりの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジ25キャンペーン及び照明の消灯を行った。 <p>【省エネ高効率型機器の導入によるCO2排出量削減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用水ポンプを高効率モータに更新した。 ・ 蛍光灯を高周波点灯型省エネ器具に更新した。 ・ 変電所の変圧器を省エネ型トッランナー変圧器に更新した。 ・ 変電所変圧器の統合を行った。 ・ サーバの統合を行った。 <p>【東日本大震災に伴う電力不足対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 照明の全停止、エレベータの間引き運転、空調の停止等、緊急に電力の削減策を行った。
	第2年度	<p>【社員一人ひとりの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジ25キャンペーン及び照明の消灯を行った。 <p>【設備投資による排出量の削減対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 冷凍機を高効率型に更新した。 ・ 天井照明をLED電球に更新した。 ・ 変電所の変圧器を省エネ型トッランナー変圧器に更新した。 ・ 通信センター設備の関西移転を行った。 <p>【東日本大震災に伴う節電対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所ネオンの消灯を行った。 ・ クールビズ以上の軽装化を進めたスーパークールビスを行った。 ・ 執務エリアにおいて、安全上・業務に支障ない限り原則消灯を行った。 ・ 就業時間中にエレベータの間引き運転を行った。 ・ 製品、サービスの品質に影響がある場合を除き原則、就業時間における空調の使用禁止を行った。
	第3年度	別紙「第3年度措置の実施状況」のとおり
自動車等 (第3号該 当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の状況
 (1)温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	第3年度	<p>【設備投資による排出量の削減対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷凍機2台を高効率型に更新した。 <p>【節電目標】</p> <p>事業活動に影響を与えない範囲で定着した節電対策を実施する。</p> <p>【目標値】</p> <p>定着した節電対策を盛り込んだ「2012年ピーク予測値(kw)」を超えないことを目標として運用する。</p> <p>【実績の検証】</p> <p>富士通環境経営ダッシュボードの導入 節電対策情報として、自席のパソコンから社内のイントラネットにて現在電力やピーク電力を見る仕組みを構築した。</p> <p>【導入効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ピーク電力の適時監視ができ設備の最適運転に活用 ②社員が自席で現状を把握できることで節電意識に貢献 <p>【節電対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①事業所としての主な取組み <ul style="list-style-type: none"> ・クールビズの実施(期間:5/1~10/31) ・スーパークールビズの実施(期間:6/20~9/28) ②オフィス及び個人の主な取組み <ul style="list-style-type: none"> ・不必要な執務エリアの消灯 ・不必要な個別空調の使用を禁止 ③個別施策の主な取組み <ul style="list-style-type: none"> ・時間外空調の事前申請 ・冷房効果を上げるため、ブラインドの閉鎖 ④資源の節約に貢献する主な取組み <ul style="list-style-type: none"> ・節水(上下水道処理・供給エネルギーの抑制) ・廃棄物発生の抑制(運搬燃料の抑制) <p>・目標の達成状況 2012年ピーク予測値(kw)を超えない実績で達成しました。</p>
---------------------------	------	---

(2) 再生可能エネルギー源等の利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

- ・川崎工場の再開発事業に沿って、再生可能エネルギーの事業所への導入を推進する。
- ・春祭り、クリスマスイベントなどにおいて使用する電力のすべてに風力発電によるグリーン電力を使用し、グリーン電力証書の購入によるカーボンオフセットを行うことで、再生可能エネルギーを使用したこととみなす。

イ 計画期間の再生可能エネルギー源等の利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考
太陽光発電	規模：55kw 導入場所：川崎工場	平成22年度	導入

ウ 計画期間の再生可能エネルギー源等の価値の保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考
風力発電	グリーン電力証書の購入 規模：1,000kwh 場所：川崎工場	平成22年度	購入済
風力発電	グリーン電力証書の購入 規模：3,000kwh 場所：川崎工場	平成22年度	購入済
風力発電	グリーン電力証書の購入 規模：3,000kwh 場所：川崎工場	平成23年度	購入済
風力発電	グリーン電力証書の購入 規模：3,000kwh 場所：川崎工場	平成24年度	購入済

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	低CO ₂ 川崎パイロットブランド09選定 製品名：PRIMERGY BX900シリーズ CO ₂ 削減量：ライフサイクル全体で約55%/1機能削減
第1年度	低CO ₂ 川崎パイロットブランド10選定 製品名：省エネ型UNIXサーバシステム「SPARC EnterpriseMシリーズ」 ・性能を27%向上させ、同時に消費電力量半減、軽量化を実現。
第2年度	低CO ₂ 川崎パイロットブランド11選定 製品名：企業向けデスクトップパソコン、ディスプレイ ESPRIMO D570/B、VL-178SRL 待機時にCPUの消費電力を低減させるなどの電源制御を行い、約14Wの低消費電力を実現。低消費電力GPUを搭載し、5年前のPCと比較した場合削減できる消費電力は最大約85%。
第3年度	低CO ₂ 川崎パイロットブランド12選定 【製品名】エントリーディスクアレイ ETERNUS DX60S2、DX80S2、DX90S2 【ライフサイクルCO ₂ 削減率】 記憶容量1GBあたりで同社旧製品と比較して、46%のCO ₂ 排出量を削減

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	1. グリーン購入の推進を行う。 2. 廃棄物の減量化、分別化の推進を図る。 3. 川崎温暖化対策推進会議（CCエコ会議）への参加を行う。 4. 川崎工場の建屋に屋上緑化・壁面緑化を行う。 ・建屋屋上にサツマイモ、建屋壁面にゴーヤやアサガオなどを植栽して、緑のカーテンを設置することで直射日光をさえぎり、空調負荷を低減する。
第1年度	1. 環境に配慮した部品、材料、製品を優先して購入するグリーン調達を行った。 2. 工場内から排出される廃棄物の減量化・分別化の推進を行った。 3. 川崎温暖化対策推進会議（CCエコ会議）への参加を行った。 4. 川崎工場の建屋に屋上緑化・壁面緑化を行った。
第2年度	1. 環境に配慮した部品、材料、製品を優先して購入するグリーン調達を行った。 2. 工場内から排出される廃棄物の減量化・分別化の推進を行った。 3. 川崎温暖化対策推進会議（CCエコ会議）への参加を行った。 4. 川崎工場の建屋に屋上緑化・壁面緑化を行った。
第3年度	1. 環境に配慮した部品、材料、製品を優先して購入するグリーン調達を行った。 2. 工場内から排出される廃棄物の減量化・分別化の推進を行った。 3. 川崎温暖化対策推進会議（CCエコ会議）への参加を行った。 4. 川崎工場の建屋に屋上緑化・壁面緑化を行った。

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	43,575	t-CO ₂
(調)	43,490	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎工場	川崎市中原区上小田中4-1-1	3000	主として管理事務を行う本社等	35,790 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
中原ビル	川崎市中原区上小田中2-12-5	3000	主として管理事務を行う本社等	2,116 t-CO ₂
かながわサイエンスパーク (KSP)	川崎市高津区坂戸3-2-1	3009	補助的経済活動を行う事業所	1,641 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	4
200～300kl 未満	1
100～200kl 未満	4
100kl 未満	4

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--